

授業内容（Syllabus）

目次

1年次

情報関連科目

- 1, コンピュータ概論
- 2, コンピュータ基礎
- 3, 情報デザイン
- 4, プレゼンテーション
- 5, 情報数学

ビジネス関連科目

- 1, ビジネス概論
- 2, ビジネス日本語
- 3, 国際ビジネス
- 4, ワークショップⅠ

環境・建設関連科目

- 1, 建設情報ビジネス
- 2, ガーデンデザイン
- 3, 環境学

その他

- 1, 日本文化
- 2, キャリアデザイン

2年次

情報関連科目

- 1, CADデザイン
- 2, 情報数学

ビジネス関連科目

- 1, ビジネス戦略
- 2, ビジネス日本語
- 3, ビジネスマナー
- 4, ビジネス検定
- 5, リスクマネジメント
- 6, ワークショップⅡ

環境・建設関連科目

- 1, 測量学Ⅰ
- 2, 測量学Ⅱ
- 3, 測器演習
- 4, ランドスケープデザイン
- 5, 植栽学
- 6, 測器演習

その他

- 1, 日本文化
- 2, 英語
- 3, キャリアデザイン

授業科目名	コンピュータ概論	履修年次	1年次	単位数	2単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	三角 雅則				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

コンピュータ概論としてコンピュータのハードウェア(2進数16進数)の演算等演習のプリントを活用し、理解・深化を図る。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
2進数と10進数	1	行列の定義、行列の性質
2進数の和・差	1	行列の演算について
2進数の積	2	逆行列による連立方程式の解法
2進数小数	2	行列式の性質
2進数10進符号	2	微分係数、導関数
16進数	2	微分法の公式、高次導関数とその応用
2進数と情報量	2	偏微分・全微分とその応用
2進数の正負の表し方	2	不定積分、定積分
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

成績の評価は、出席・受講状況、期末試験の結果等により総合的に評価する。

教科書・参考書

- ・教科書: 使用せず適宜プリントを配布する。
- ・参考図書: 講義の中で適宜紹介する。

授業科目名	コンピュータ基礎	履修年次	1年次	単位数	2単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	佐竹 一生				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

PCシステムの構造とOS基本(ファイル管理・データ管理)操作の習得とともに、使用用途に合わせた汎用アプリケーション(主に「Microsoft WORD」)の活用方法を学ぶ。
特に一般業務向け文書作成の精度及びスピードのレベル確認として、全国レベル検定試験での級習得を目指す。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
OS基礎①・データ管理	2	OS原理解説、データ管理(ドライブ・フォルダ・ファイル)、拡張子解説 データ(ディレクトリフォルダ)作成・編集・保存・削除
OS基礎②・操作管理	2	ハードウェア・ソフトウェア基本 画面コントロール、操作デバイス(キーボード・マウス)理論、操作原理
基本アプリケーション	2	メモ帳・ペイント・ワードパッド・エクスプローラー、他用途別アプリ紹介
文字入力基礎	2	FEP(IME):母国語入力プログラム原理、汎用文字ルール解説
文字入力応用	2	入力・変換～文節・長文節変換、IMEパッド活用方法・文字検索
文章入力①	8	マイクロソフトワード使用(用紙設定・文書書式・長文文章入力練習)、 ワープロ検定向け打鍵速度重視訓練
複合データ作成	4	ワード準拠(シェイプ・画像挿入・文字列折り返し・罫線作図・リンク ファイル配置)プレゼンデータ作成練習
文章入力②	8	マイクロソフトワード使用(文字書式・段落書式・配置・装飾管理)、 ワープロ検定向けレイアウト文章作成訓練
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

出席状況、課題の提出状況、実技試験により、総合的に評価する。

教科書・参考書

- ・教科書は使用せず適宜プリントを配布する。
- ・参考図書:講義の中で適宜紹介する。

授業科目名	情報デザイン	履修年次	1年次	単位数	2単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	佐竹 一生				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

PCデータ(テキスト・画像・図形)制作の習得とともに、用途に合わせた汎用アプリケーション(ワード、エクセル、パワーポイント等)の複合的活用からデータベース作成技術、プレゼンテーション(実務応用)への活用までを学ぶ。
併せてデータ制作時のデザイン基準の適用方法、管理方法等、OS操作の応用活用をふくめ、汎用力の向上も図る。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
OS応用・データ管理	2	データ保守(ドライブ・フォルダ・ファイル)、バックアップ&復元 認証ルール、情報リテラシー&セキュリティー
基本アプリケーション	2	メモ帳・ペイント・ワードパッド・エクスプローラー連携活用
文字入力拡張	1	辞書・ショートカット活用
スプレッドシート作成①	2	「Microsoft Excel」①:セル入力原理、基本操作、データ入力
スプレッドシート作成②	3	「Microsoft Excel」②:セルの書式、行と列と幅、スタイル、条件、テンプレート、簡易マクロ設定、シートロック
ワークシートの数値管理	4	「Microsoft Excel」③:数式と関数(数式作成、関数組み込み、財務分析、範囲関数)、セルの絶対座標、ワークグループ活用
グラフ作成	3	「Microsoft Excel」④:基本(棒・円)～複合グラフ作成(グラフ・プロットエリア書式管理)、編集・活用
データベース	4	「Microsoft Excel」⑤:並べ替え・抽出・ピボットテーブル・ゴールシーク 設定手順とルール解説
プレゼンテーション①	6	「Microsoft Powerpoint」①:スライドルール、オブジェクト挿入・編集、ページリンク活用
プレゼンテーション②	3	「Microsoft Powerpoint」②:アニメーション・スライドショー活用ポイント紹介
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

出席状況、課題の提出状況、実技試験により、総合的に評価する。

教科書・参考書

- ・教科書は使用せず適宜プリントを配布する。
- ・参考図書:講義の中で適宜紹介する。

授業科目名	ビジネス戦略	履修年次	1年次	単位数	1単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	入江 修				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業の目的・テーマ					
ビジネスシーンで必要となるプレゼンテーションの方法を解説、発表する技術だけでなく、短時間で簡潔に要点を伝える技術を身につけることを目的とします。相手に理解してもらうための内容の構成、パワーポイントや動画等の視覚資料等の使い方も併せて学びます。					
授業計画(内容)					
項目	回数	内容			
プレゼンテーションの目的	3	プレゼンテーションの流れを解説していきます。ヒアリングの重要性や、伝えたいことを理解させ意思決定を促すまでに至る準備方法を解説。			
構成について	5	5W1Hを明確にし、6つの要素で構成することの重要性を解説。6つの要素をグループごとに提示させ、行動を促す流れを学びます。			
プレゼンテーションの準備	3	仮定の目的を設定し、目的に達するため相手に伝えるべきメッセージを決定します。メッセージが明快に伝わる文章を作成。これまで学んだ構成を組み立て、ストーリー作りを行います。			
視覚資料について	2	企画書等の紙資料、パワーポイントや写真、ムービー等のデジタル資料の解説。プレゼンテーションの準備で制作したメッセージを資料として制作。			
模擬プレゼンテーション	2	グループごとにプレゼンテーションを実施。イントロダクションからクロージングまでの流れを実習することで、これまで学んだ基礎知識の重要性を理解します。			
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。				
成績評価の方法					
出席状況、課題の提出状況、実技試験により、総合的に評価する。					
教科書・参考書					
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は使用せず適宜プリントを配布する。 ・参考図書:講義の中で適宜紹介する。 					

授業科目名	情報数学	履修年次	1年次	単位数	2単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	三角 雅則				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

科目「情報数学」として図形、因数分解、今後を含む計算等を学ぶことで国際情報ビジネス科の基礎科目としての役割を果たすとともに、日本留学試験に対応する。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
図形の面積と公式の理解	3	三角形、四角形、台形、円、扇形
因数分解	3	公式に基づいた因数分解とその応用
三角関数と図形	3	正弦・余弦・正接 三角形・平行四辺形 等
素数とその応用	3	素数 素因数分解 最大公約数・最小公倍数 等
根号を含む式の計算	3	素因数分解 対称式 和・差
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

成績の評価は、出席・受講状況、期末試験の結果等により総合的に評価する。

教科書・参考書

- ・教科書:新課程対応日本留学試験対策 SNGパスポート・数学
- ・参考図書:講義の中で適宜紹介する。

授業科目名	ビジネス概論	履修年次	1年次	単位数	3単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	三好 正直				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

ビジネスとはその事業目的を実現するための活動の総体をいい、個人または法人組織などの事業体がそれぞれの事業目的の実現のために人・物・金・情報などの諸資源を活用して行う活動全体を意味する。授業ではビジネスの概説をおこなうとともに、主に資本主義における顧客への価値の提供とその対価を得る活動について解説をおこなう。現代のビジネスをより理解するために経済のしくみにふれ、財貨とサービスの概念や技術革新についても解説する。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
ビジネスと経済	7	ビジネスを理解するために、経済の基礎事項について解説する。特に商品、市場、財貨、サービス、生産、流通、消費などの基礎用語を理解させ、新しいビジネスについて考えさせる。
技術革新	4	産業革命による資本主義の成長と技術革新によって新しいビジネスが多く生まれたことを解説する。イノベーションで生まれた現代のビジネスを紹介し、これからのビジネスについて考察させる。
現在の経済	4	日本における戦後の国際化で変化した都市生活と地方生活を解説する。現在の日本の経済資料を使い、国民経済の3つの経済主体が国際経済のなかでどのように世界とかがかかわっているのかを解説する。
経済とはなにか	4	地方経済、国民経済、国際経済と貿易について解説する。自然経済、資本主義経済、社会主義経済を解説し、人間の欲求と経済活動や通貨の役割について解説する。
財貨とサービス	4	ビジネスで重要な「価値」について理解するために、財貨とサービスについて解説する。財貨やサービスの種類を紹介し、様々なビジネスの説明を行う。産業の種類や市場経済、消費者心理やビジネス経営を解説する。
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

出席状況、課題の提出状況、定期試験により、総合的に評価する。

教科書・参考書

- ・教科書は使用せず適宜プリントを配布する。
- ・参考図書:講義の中で適宜紹介する。

授業科目名	ビジネス日本語	履修年次	1年次	単位数	3単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	金子 雅美				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

日常会話のレベルからビジネス日本語へのレベルアップを目的とし、最終的には就職活動、就職後に役に立つビジネス日本語の習得を目標とする。また自国と日本の文化やビジネスを俯瞰的に、多角的に見ることを意識させ、出身国との慣習の違いに囚われず、客観的に取り組むように促す。2年次に実践的なビジネス日本語へ移行するためにも基本的なビジネス日本語を学習する。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
目標設定	1	将来の夢や目標を具体的な表現を用いて書く。
自己紹介・自己分析	4	就活能力に必要な自己紹介、自己分析、自身の長所短所を自分の意見だけでなく、周囲の意見も混ぜながら作成。
企業研究	4	業界、業種、職種の研究。やりたい仕事を確認し、就職活動の志望動機へつなげる。
勤務の条件	4	求人票を参考に、雇用形態、福利厚生など日本の会社、雇用の仕組みを学習する。
履歴書・自己PR	4	履歴書の作成の基礎、自己PRの書き方を学ぶ。
異文化理解	4	異文化を理解することはもちろん、異文化の中で他者への配慮をしながら自分らしさを表すことを学ぶ。
日本の地理	2	地理的視点で日本の地域の特性なども学び、知識を深める。
報告・連絡・相談	5	ケーススタディーで報告・連絡・相談の必要性を学ぶ。
敬語	4	ビジネスの場面での敬語や言い回しを実際発話しながら復習。
会話	4	ビジネスの場面で想定される会話を敬語やビジネス日本語を用いて会話する。
ビジネスメール	4	書き言葉としてビジネスメールの文章を学び、実践。
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

授業内での小テストや授業態度を鑑み期末テストで評価する。評価内容は受講状況30%、期末テスト70%とする。

教科書・参考書

- ・教科書「伸ばす！就活能力・ビジネス日本語力」(図書刊行会)
- ・参考図書「マンガで体験！にっぽんのカイシャ」(日本漢字能力検定協会)

授業科目名	国際ビジネス	履修年次	1年次	単位数	2単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	三好 正直				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

現在の企業の経営活動は、国境を越え地球規模で展開される。グローバル化で国際的な情報の共有や貿易が盛んになり生活が豊かになる国があらわれる反面、貧富の差の拡大などの問題もあらわれてきた。授業では現代の国際ビジネスをより深く理解するために経済の意義や成り立ちなど経済の基礎に立ち返りながら、国際経済やグローバルなビジネスについて解説する。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
経済の歴史	2	国際ビジネスを理解するために経済活動の基礎を解説する。原始アウタルキー経済の時代から現代までの流れを古代ローマ、中世ヨーロッパ、産業革命期のイギリスなどを通じて理解を深めさせる。
ストックとフロー	2	ストックとフローの概念の解説をする。国富がストック、国民所得がフローであることを説明し、3つの経済主体と金融によって国民経済が回っていることを理解させる。3つの経済主体については具体的に解説する。
付加価値とは	2	付加価値の説明を通じて商品の価格について理解を深める。具体的な商品を例に付加価値を解説し、経済や市場の仕組みを理解させる。付加価値の合計が国民所得である説明を通じて国際比較の統計を解説する。
国民経済と国際経済	2	ビジネス概論で学んだ知識をもとに、国民経済と国際経済への理解を深める。国民経済では政府の財政の理論、国際経済では国際分業による比較生産費説などの解説を通じて国際ビジネスの理解を深める。
さまざまなビジネス	2	新ビジネスを紹介しながら、現在のあらゆる種類の生産・流通・販売ビジネスを幅広く解説する。各種表示マークを通じて、企業の社会的責任を解説し、立地による産業の分類や特色ある日本の企業や販売法を学習する。
金融ビジネス	1	金融の定義と金融機関の種類とはたらきを学習し、さらに具体的な業務やビジネスの内容について解説する。信用創造や情報通信ビジネスについても解説し、ユビキタス社会の説明を行う。
ビジネスに必要なもの	2	経営理念、ロゴマーク、経営法、社員教育、資金調達、会計処理、技術開発力、販売力、生産・物流方式、許認可と法律などを解説する。
法とビジネス	2	PL法による裁判の事例、会社設立の手続きやコンプライアンス管理とリスク、M&Aと会社組織、労働法と雇用などの事例を通じて法とビジネスを解説する。
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

出席状況、課題の提出状況、定期試験により、総合的に評価する。

教科書・参考書

- ・教科書は使用せず適宜プリントを配布する。
- ・参考図書:講義の中で適宜紹介する。

授業科目名	ワークショップ I	履修年次	1年次	単位数	5単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	貞清 潔				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

組織の問題解決や参加型研修など、ビジネスの現場でもさまざまに活用が広がるワークショップであるが、経験しないと、その認知、理解はできない。さまざまなテーマでワークショップを体験し、グループでの対話を通じて生まれる気づきや一つの成果を導き出すことを学び、ワークショップに慣れ、知り、ワークショップへの理解が深まることを目標とする。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
ワークショップの基本	2	ワークショップとは何か？ワークショップにとって重要な「創発性」「主体性」「相乗効果」、ワークショップを成立させる要素、活用されている様々な分野などの基礎的な概論を学ぶ
アイスブレイク	2	グループに分かれる手法、グループに分かれたのちに知り合い、話しやすい環境をつくるアイスブレイクのアクティビティを体験する
チームビルディング	4	仲間と協力して、また話し合うことで、何かを作り上げ、時に競い合い、チーム力を高めるアクティビティを体験する
共有と合意形成 I	6	出身国に影響されない共通したわかりやすいテーマを設定し、グループで対話し、合意形成により一定の成果を導き出すことを体験する
共有と合意形成 II	8	ビジネスに関連したテーマを設定し、グループで対話し、合意形成により成果を導き出すことを体験する
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

ワークショップへの主体的な参加姿勢、講義の節目に行う小テストにより総合的に評価する。

教科書・参考書

- ・講義内容はパワーポイントを用い、適宜プリントを配布する。
- ・参考図書：講義の中で適宜紹介する。

授業科目名	建設情報ビジネス	履修年次	1年次	単位数	2単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	三好 正直				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

建設は、建築と土木の他に農・林業関係の仕事や造園、海洋分野やプラント、電設や通信インフラストラクチャーなどの基盤構築の分野の総称をさし、この分野にかかわるビジネスは多い。著しく変化する現代の情報化社会の中で、新しいビジネスのあり方が求められている。授業では、自然災害が多い日本の建築・土木の伝統技術や工法をふまえ、現代の建設にかかわるビジネスの実情について幅広く学習するとともに、情報化社会の中で将来のシビルエンジニアリングのあり方やビジネスについて考える力を養うことを目的とする。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
建設の定義と概説	3	建設の定義について解説し、土木・建築にかかわる29業種について紹介しながら、どのようなビジネスがあるのかを解説する。
災害と建設	2	地震、津波、豪雨、台風、噴火などの自然災害について学習し、このような災害と建設とのかかわりを通じて、ビジネスについて考察させる。
日本の自然と建設	2	四季明瞭で美しい日本の自然環境がある反面、高温多湿な夏や豪雪地帯の冬の厳しさをもつ日本の風土に日本の建築や土木がどのような技術や工夫で乗り切ってきたかについて解説をする。
土木史	1	縄文時代から続く土木の技術について概説を行う。特に近世以降の治山・治水工事について日本の技術を解説し、日本人が自然とどう向きあってきたかについて考察させる。
現代の土木技術	2	現代の土木技術のいくつかを紹介する。橋梁、ダム、道路、鉄道、港湾、飛行場工事などを具体的に解説し、必要な資格について解説するとともに、これからのビジネスについて考察させる。
土木のビジネスの実際とこれからの土木	1	土木のビジネスの企画・立案から施工・維持管理までを具体的に解説する。特にゼネコンを中心に開発された新技術について紹介し、情報化社会の中で土木業界がどのように変化してきているのかを解説する。
建築史	1	古代から続く建築の技術について概説を行う。特に仏教・神社建築にみられる伝統技術を解説し、日本独自の建築文化について考察させる。
現代の建築技術	2	現代の建築技術について解説する。建築の材料や工法、建築が行われる具体的な方法を紹介する過程で法律の制限や手続き、さらに必要な資格についても適宜触れ、これからのビジネスについても考察させる。
建築のビジネスの実際とこれからの建築	1	具体的な建築の事例をあげながら、建築ビジネスがどのように行われているのかを主にゼネコンの紹介を通じて行い、情報化によりどのようにビジネスが変わっているのかを解説する。
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

出席状況、課題の提出状況、定期試験により、総合的に評価する。

教科書・参考書

- ・教科書は使用せず適宜プリントを配布する。
- ・参考図書:講義の中で適宜紹介する。

授業科目名	環境学	履修年次	1年次	単位数	3単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	小野 仁				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

植物が人々の生活環境のなかでどのような役割や意義をもっているかについて理解し、生活環境や植栽のあり方について考える基礎的知識を身に付ける。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
植物の形態と分類体系	3	植物の形態と分類体系の関係を解説する
葉の形態	4	葉の形態の多様さを機能と関連付けて理解させる
果実と種子の構造と生態	4	生殖器官の構造を理解し、繁殖成功のための開花結実スケジュールについて解説する。また、繁殖に重要な果実と種子の構造と散布様式について理解を深める。
主要樹木の分布と系統、用途	4	主要な樹木の分布を把握し、それらの系統について理解する。また、主要な常緑樹、落葉広葉樹の用途について解説する。
植物における無機栄養と水の獲得	4	無機栄養と水が植物によって吸収されるメカニズムを解説する。
植物の光合成と呼吸	4	植物の基礎代謝である光合成と呼吸について解説し、植物の光合成にも多様性があることを理解する。
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

出席状況、課題の提出状況、定期試験により、総合的に評価する。

教科書・参考書

- ・教科書は使用せず適宜プリントを配布する。
- ・参考図書:講義の中で適宜紹介する。

授業科目名	ガーデンデザイン	履修年次	1年次	単位数	2単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	小野 仁				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ 留学生に対して、日本の造園の歴史や植栽の特徴を教え、植物の生態系でのポテンシャルを理解してもらおう。この最終成果として、花壇を設計して、実習として花を飢える。

授業計画(内容)		
項目	回数	内容
日本の造園の歴史を学ぶ	4	枯山水、池泉回遊式庭園、露地などの様々な庭園形式とその形式や歴史などを知る。
植物の基礎を学ぶ	4	校庭や近傍の公園で基本的な樹木をスケッチしながら学ぶ。バラ科(ソメイヨシノ、ヤマザクラ、ハナカイドウ)やブナ科(アラカシ、シラカシ、クヌギ)などについては集中的に学ぶ。
花壇の設計と花植え	8	2人一組で1m×1m程度の花壇に、視点、色彩や光の当たり具合を考慮して、どのように花を植えるかを考える。最終的には、実際に植栽作業を行う。
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法 出席状況、課題の提出状況、実技試験により、総合的に評価する。
教科書・参考書 ・教科書は使用せず適宜プリントを配布する。 ・参考図書:講義の中で適宜紹介する。

授業科目名	日本文化	履修年次	1年次	単位数	10単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	門司 剛・竹下 綾香				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

日本で暮らす外国人として日本の文化や習慣について知識を得、理解を深めることを目的としている。また、同じ国や違う国の留学生同士でテーマについて話し合い、共通点や相違点を考えることで異文化相互理解を促す。同時にN2レベルの文法、語彙、漢字などを習得し、社会的な場面で必要な総合的な日本語が理解・表現できることを目指す。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
日本の食生活	9	味や調理方法、調理道具などの語彙とともに、食事の形態やマナー、食生活の変化などについて学ぶ。
日本の衣生活	9	日本における服装のTPO、制服文化や、衣替え文化などを紹介し、各国の衣生活と比較する。
日本の住生活	9	日本の家の特徴や、固有のもの(畳や障子など)、間取りの呼び方などを学び、現在住んでいる家や母国の家について紹介する。
日本の家族	9	日本人の家族形態に関する語彙を習得し、結婚や離婚、出産、葬儀など、家族に関する習慣について自国と比較する。
日本の教育	9	日本及び諸外国の教育制度について知り、日本の学校教育制度を相対的に理解して特徴を考える。
伝統的日本文化	9	歌舞伎や茶道など古来から継承され発展し続ける日本文化について紹介するとともに近年のポップカルチャーについても触れる。
日本の習慣・行事	9	日本で生活する上で知っておくべき習慣や、1年の中の行事やイベントについて紹介し、各国と比較する。
日本語能力試験対策	12	模擬試験を数回行い解答解説を行う。学生の得意分野、苦手分野を確認し、課題を把握、試験合格を目指す。
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

期末テスト(60%)、授業への参加率や態度(20%)
授業内の小テストや模擬試験、日本語能力試験の結果(20%)

教科書・参考書

教科書:「ニューアプローチ 中級日本語 基礎編 改訂版」(語文研究社)、「新完全マスター語彙 N2」(スリーエーネットワーク)、「TRY! 日本語能力試験 N2 文法から伸ばす日本語」(アスク出版) 他

授業科目名	キャリアデザイン	履修年次	1年次	単位数	3単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	吉田 正博				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業の目的・テーマ					
日本の企業と仕事について理解を深め、社会に貢献できる人材育成を目指す。また、就職を希望する学生一人一人の方向性をデザインし、社会人としての基礎能力の向上を目的とし、留学生在が主体的となって進路を確定することを目標とする。					
授業計画(内容)					
項目	回数	内容			
ガイダンス	4	「キャリア」という言葉の持つ多様性について事前に調べ、一般にキャリアデザインとはどのような意味で使われるのかを把握する。			
就職の変容と雇用形態について	5	日本の雇用の現状について理解を深める。			
仕事観と働き方	5	自分が仕事をしている姿を想像し、趣味、家庭、余暇などをどのようにバランスを取りたいか、自分の価値観について仕事を絡めて考える。			
自己分析をしてみよう①	5	自己分析がなぜ採用の場面で必要とされるのか調べ、自分なりの答えを考える。			
自己分析をしてみよう②	5	前講の内容を踏まえて、作業を進める。作業を進め、指示・フィードバックを踏まえてワークシートの質を高めて提出する。			
社会人とのシンポジウム①	4	ワークシート作成に必要な情報を収集する。			
社会人とのシンポジウム②	4	ワークシートを完成させて提出する。			
「業界」とは何か	4	興味のある「業界」のページをいくつかピックアップし、それらの企業・その他の企業について下調べをする。			
エントリーシートを書いてみる①	6	エントリーシートの書き方、問われるポイントについて解説する。			
エントリーシートを書いてみる②	6	自身のワークシートを見直し、改善点を把握する。			
履歴書を書いてみる	5	実際に履歴書を作成する。			
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。				
成績評価の方法					
キャリアデザインに対する取り組み方から総合的に評価する。					
教科書・参考書					

授業科目名	CADデザイン	履修年次	2年次	単位数	1単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	佐竹 一生				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

CADアプリケーションの基本操作習得をもとに、測量技術を汎用PCでシミュレートし測量図面を制作する。併せて業務仕様に準じたデータ制作時のデザインルールや、データ管理方法等、OS操作の応用活用をふくめ、PC操作における汎用力の向上も図る。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
CAD入門・データ管理	1	CAD仕様解説、ツールバーフライアウトデザインコントロール
図面セットアップ	2	作業図面の初期設定、座標管理、アプリケーションステータスバー管理
基本コマンド習得	3	開口部付ボックス作成(基本コマンド～Line, Offset, Fillet, Extend, Erase, Trim)
図面作製演習①	1	地積測量図からの図面作図、地積・面積求積
座標管理導入	2	ワールド・測量座標の切替、尺度・高度概念の作図時導入方法
図面作図演習②	2	表示スタイルコントロール(文字・寸法図・ISO基準)、方位マーク作成
図面作図演習③	2	平均図作成(画層管理、座標点管理、マルチテキスト、尺度印刷設定)
図面作図演習④	2	観測図作成(起点設定○スナップ、水平角、距離マーク作図)、印刷
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

出席状況、課題の提出状況、実技試験により、総合的に評価する。

教科書・参考書

- ・教科書は使用せず適宜プリントを配布する。
- ・参考図書:講義の中で適宜紹介する。

授業科目名	情報数学	履修年次	2年次	単位数	4単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	三角 雅則				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

1年次からの継続科目「情報数学」として三角比、図形の面積、2次関数の最大・最小等について、座学・演習をとおして学ぶことで国際情報ビジネス科のす情報数学に係る応用科目としての役割を果たすとともに、日本留学試験に対応する。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
三角比	5	正弦・余弦・正接、正弦定理・余弦定理 等
体積と表面積	5	休・角柱・角すい・円柱・円すいの体積・表面積
公約数と公倍数	5	最大公約数と最小公倍数、ユークリッドの互除法
有理数と無理数	5	有限種数・無限小数、無理数、二重根号 等
2次関数	5	2次関数の軸と頂点、2次関数の最大・最小 等
順列・組合せ	5	微分法の公式、高次導関数とその応用
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

成績の評価は、出席・受講状況、期末試験の結果等により総合的に評価する。

教科書・参考書

- ・教科書:新課程対応日本留学試験対策 SNGパスポート・数学
- ・参考図書:講義の中で適宜紹介する。

授業科目名	ビジネス戦略	履修年次	2年次	単位数	1単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	入江 修				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

企業が自らの経営目標を達成するための計画立案を、過去の事例や現在進行中の事例を基に経営戦略を解説します。将来関わる可能性が高い多角化戦略やグローバル戦略等については、ワークショップ形式で計画立案を実施し、チームごとにプレゼンテーションを行います。経営戦略の知識を学ぶだけではなく、日本の商習慣を身につけることを目的としています。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
ビジネス戦略概論	1	基本的なビジネス用語、ビジネス戦略の重要性、戦略を行うためのステップを解説。グローバル戦略、日本独自の戦略の違いを解説。
世代別分析	1	代表的なX・Y・Z世代の特徴や消費者行動を解説。成功事例を紹介、世代に適した戦略を発表。これからの消費者行動を予測。
フレームワーク	2	情報分析に役立つフレームワークの活用を解説。グループごとに代表的なフレームワーク分析を行い、発表。分析結果がビジネス戦略に結びつくことを理解します。
マーケティング	2	マーケティングの成功事例に基づき、一連の流れを解説。日本における消費者行動とニーズを示し、解決する価値を提供する方法を学びます。
DX戦略について	2	デジタルオートメーションの仕組み、企業の成功事例を解説。IoT活用事例を紹介し、これからのビジネスモデルを発表。
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

出席状況、課題の提出状況、実技試験により、総合的に評価する。

教科書・参考書

- ・教科書は使用せず適宜プリントを配布する。
- ・参考図書:講義の中で適宜紹介する。

授業科目名	ビジネス日本語	履修年次	2年次	単位数	4単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	金子 雅美				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

ビジネスの場面で想定される会話、敬語表現を学び、1年次に学んだ基礎的なことを実践的に使用できるようになることを目的とする。文法や語彙などもしっかりと取り入れ、反復練習することで定着を図る。日本の企業が外国人を募集する際に求める高度な日本語力習得を目指す。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
ビジネスの場面での挨拶	2	就職活動や内定後、また就職してからと場面を想定し、人間関係を円滑にするビジネス会話を学ぶ。
就職の面接	5	文法、語彙に加えて、自分の意見も考えなければならないので、ロールプレイを重ねて定着を図る。
電話対応の日本語	5	掛ける、受ける、取り次ぐといった電話による会話を学習し、習得を図る。伝言のメモの取り方なども併せて学習する。
訪問・交渉の日本語	5	アポを取ることで、実際に訪問するとなった場合の持ち物や身だしなみ、訪問のマナーも含めて学び実践練習する。
会議・ミーティング	5	会議等での自分の意見の言い方、同意、反論の言い方、資料の作成、見方、など会議ミーティングで使われる日本語を学び模擬会議を行う。
プレゼンテーション	3	テーマに基づいてプレゼンテーションを行い、自分の考えを他者へ正しく伝えることの習得を図る。
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

授業内での小テストや授業態度を鑑み期末テストで評価する。評価内容は受講状況30%、期末テスト70%とする。

教科書・参考書

- ・教科書「伸ばす！就活能力・ビジネス日本語力」(図書刊行会)
- ・参考図書「中級レベルロールプレイで学ぶビジネス日本語-就活から入社まで-」(スリーエーネットワーク)

授業科目名	ビジネスマナー	履修年次	2年次	単位数	4単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	金子 雅美				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

日本での生活また日本企業で働く際に必要な、マナーの習得を目的とする。日本人は習慣的に行っているマナーを、まずは説明し、学生たちに理解してもらい、社会や組織の一員として就職してからも困らないように役に立つマナーの習得を図る。また、マナーの中には他者との関わりを円滑にする役割もあるので、マナーが及ぼす役割も併せて学ぶことも目的である。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
社会人としてのマナー	5	一般的なマナーの導入。にほんで生活する人間としてのマナーを確認し、さらに社会人としてのマナーの習得を目指す。
笑顔、挨拶、言葉遣い	5	雑談やしぐさ、身だしなみも含めて、ビジネスの場面で社会人としてひるようなマナーを学ぶ。
携帯電話のマナー	5	どのような場面で使用不可か、通信に関するマナーを学ぶ。また、SNSにおける社会人としての関わり方も学ぶ。
お客様へのマナー	5	来客対応全般。案内の仕方、上座や下座、お茶やお菓子の出し方、食べ方、見送りのマナーなどを学ぶ。
手紙・メールのマナー	5	ビジネスメールや手紙で使用される言い回し、表現を学び、季節の言葉やクッション言葉も学ぶ。
ビジネス文書	5	ビジネス文書のフォーマットを説明し、企業からの文書も理解できるようにし、また、自身でも作成できるよう指導する。
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

授業内での小テストや授業態度、また実践演習など総合的に評価する。

教科書・参考書

参考図書「秘書検定3級クイックマスター」「サービス接客検定3級公式テキスト」(実務技能検定協会)他
オリジナル教材

授業科目名	ビジネス検定	履修年次	2年次	単位数	4単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	金子 雅美				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

どのような企業、組織でも顧客、または取引先に対して「人」対「人」のコミュニケーションが求められる。この授業では、サービスの意義、対人技能を学び、他者と良好な人間関係を築くために必要な「対人関係能力」を習得することを目的とし、「サービス接客検定試験3級」の取得を目指す。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
サービススタッフの資質	3	サービススタッフに必要なものは何か。明朗さ、誠実さ、忍耐力など日本的サービス概論を解説。
専門知識	5	サービスの意義、サービスの機能を学ぶ。また、ビジネス専門用語も学ぶ。
一般知識・社会常識	5	ビジネスの場面でよく使用される言い回し表現、ことわざ、行事、などを学ぶ。
対人技能	6	接客でもっとも大切なコミュニケーション能力や敬語を応用力まで学ぶ。
実務技能	5	問題処理、環境整備、金品管理、社交業務を学ぶ
過去問題対策	6	過去問題を解き、解説。出題の傾向と対策を練ると同時に、サービスに必要な知識を定着させる。
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

授業内での小テストや授業態度を鑑み、模試の結果、また実際の試験の合否などから評価する。

教科書・参考書

教科書「サービス接客検定試験3級公式テキスト」(実務技能検定協会)
参考図書「サービス接客検定試験3級実問題集」(実務技能検定協会)

授業科目名	リスクマネジメント	履修年次	2年次	単位数	1単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	貞清 潔				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

生活や仕事の中で起こりうるリスクを想定し、リスク管理の考え方から対策、対応力について、個人またグループディスカッションを通じて、リスクマネジメントの基本を理解し、リスクを未然に見つけ出し、どのように回避するか、リスクに対処できる力を養うことを目標とする。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
リスクマネジメントの概要	5	リスクマネジメントとは何か、その考え方、リスクの特定から対応の仕方などについて、身近な例をとりあげながらリスクマネジメントの概要を学ぶ。
生活の中でのリスクマネジメント	4	実際の家庭を想定し、グループワークにより、生活の中で見落としがちなリスクを洗い出しながら、家庭内のリスクマネジメントを通じてリスクマネジメントの本質を学ぶ。
仕事でのリスクマネジメント	6	職場で「景品」を用意する場面を想定し、リスクの特定から対応までグループで考え、それぞれの発表を通じて、リスクマネジメントを検証する。
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

授業に取り組む姿勢(30%)、期末試験(70%)を総合して評価する。

教科書・参考書

- ・教科書は使用せず適宜プリントを配布する。
- ・参考図書:講義の中で適宜紹介する。

授業科目名	ワークショップⅡ	履修年次	2年次	単位数	6単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	貞清 潔				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

組織の問題解決や参加型研修など、ビジネスの現場でさまざまに活用が広がるワークショップをデザインするにあたって、その基本となるコンセプト、セッション、アクティビティ、テーマの組み立てなどを学び、自ら企画、実践することを目標とする。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
導入編	2	ワークショップとは何か、ワークショップで大切にしているもの、特徴やタイプ、ワークショップを構成する要素など、ワークショップの基本を学ぶ
基礎編	4	ワークショップをデザインするにあたって、そのステップごとの注意点を学ぶ
技術編	6	プログラムを構成するセッションに活用されるアクティビティについて、具体的な例を用いながら学ぶ
プログラムデザイン例	4	ワークショップの実践に向けて、コンセプト、テーマを踏まえて成果を得ていくプログラムのデザイン例を学ぶ。
プログラムデザイン	8	チームを編成し、実際に、ワークショップを実践するためのコンセプト、テーマを設定し、成果を得ていくプログラムをデザインする。
ワークショップの実践	8	デザインしたプログラムをもとに、チームごとにクラスの仲間を参加者としてワークショップをファシリテートする。
ファシリテーション・グラフィック	2	さまざまな意見、議論が見える化し、ワークショップの進行の重要な役割を果たすファシリテーション・グラフィックの基礎的なことを学ぶ
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

- ・授業への参加姿勢、講義の節目に行う小テストにより総合的に評価する。
- ・チームでの主体的な参加姿勢、デザインしたプログラム、ファシリテートのレベルにより総合的に評価する。

教科書・参考書

- ・教科書は使用せず適宜プリントを配布する。
- ・参考図書:講義の中で適宜紹介する。

授業科目名	測量学 I	履修年次	2年次	単位数	4単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	古賀 敦典				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

測量とは、地球表面所の諸地点の位置関係を測定し、決定する技術である。その結果から距離、角度、方向、高さ、面積、体積を計算し、地形図や図面を作成する。その中で基本である平面測量を基礎技術として講述する。特に、距離測量、角測量、およびトラバース測量についてを述べる。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
序論	2	測量の歴史及び現在の各分野について述べ、我が国の測量基準の利用法、点の位置の各種決定方について解説する。
距離の測量	2	テープによる直接距離測量の方法と精度の計算法、誤差の処理法について述べる。また、電磁測距儀による間接距離測量にも触れる。
測量で扱う角度と角度の単位	4	測量・建設現場では、わずかな角度の違いでも位置決定に及ぼす影響が大きい。そのため、高い精度で角測量を行わなければならない。ここでは、角の定義、単位について解説する。
水平角の測定方法 (1)	4	セオドライトの構造、機能、及び角測定法について述べる。また、各種の誤差の表現法、処理法を解説する。
水平角の測定方法 (2)	4	角測量によって得られた値には、様々な誤差が生じる。ここでは角測量に関する誤差について、誤差の生じる原因と消去方法について述べる。
トラバース測量 (1)	4	トラバース測量の定義、構成、種類について述べる。
トラバース測量 (2)	6	トラバースの原理、計画、方法について述べ、ついで内業としてのデータ、測量整理、誤差の処理、座標計算、照査法を述べる
トラバース測量 (3)	4	トラバース測量の成果により、測点と測線で構成される多角形の内側の面積を求める方法がある。特に倍横距法と座標法の二つについて解説する。
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

出席・受講状況、課題提出等を鑑み、来ます試験の結果を総合して評価を行う。評価の割合は、出席・受講状況(30%)、各講義の最後に行う小テスト(20%)、期末試験(50%)とする。

教科書・参考書

- ・教科書:水理学概論(岡二三生・白土博通・細田尚 監修、実教出版)
- ・参考書:

授業科目名	測量学Ⅱ	履修年次	2年次	単位数	4単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	古賀 敦典				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業の目的・テーマ 測量とは、地球表面所の諸地点の位置関係を測定し、決定する技術である。その結果から距離、角度、方向、高さ、面積、体積を計算し、地形図や図面を作成する。その中で基本である平面測量を基礎技術として講述する。特に、水準測量についてを述べる。					
授業計画(内容)					
項目	回数	内容			
水準測量の定義と分類	2	測量において、表面の高低差を求める測量は重要な役割を担っている。ここでは、水準測量の定義と分類、標高の基準について解説する。			
水準測量の測定方法(1)	3	2点間の高低差			
水準測量の測定方法(2)	4	水準測量の手法の一つである昇降式について解説する。特に手簿の記帳方法と計算方法について述べる。			
水準測量の測定方法(3)	4	水準測量の手法の一つである器高式について解説する。特に手簿の記帳方法と計算方法について述べる。			
水準測量の誤差	2	水準測量によって得られた値には、様々な誤差が生じる。ここでは水準測量に関する誤差について、誤差の生じる原因と除去方法について述べる。			
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。				
成績評価の方法 出席・受講状況、課題提出等を鑑み、来ます試験の結果を総合して評価を行う。評価の割合は、出席・受講状況(30%)、各講義の最後に行う小テスト(20%)、期末試験(50%)とする。					
教科書・参考書 ・教科書:水理学概論(岡二三生・白土博通・細田尚 監修、実教出版) ・参考書:					

授業科目名	測量学Ⅱ	履修年次	2年次	単位数	1単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	西村 千行・木村浩三				
実務経験のある教員等による授業科目					
授業の目的・テーマ					
<p>測量とは、地球表面所の諸地点の位置関係を測定し、決定する技術である。その結果から距離、角度、方向、高さ、面積、体積を計算し、地形図や図面を作成する。その中で基本である平面測量を基礎技術として講述する。特に、水準測量についてを述べる。</p>					
授業計画(内容)					
項目	回数	内容			
水準測量の定義と分類	2	測量において、表面の高低差を求める測量は重要な役割を担っている。ここでは、水準測量の定義と分類、標高の基準について解説する。			
水準測量の測定方法(1)	3	2点間の高低差			
水準測量の測定方法(2)	4	水準測量の手法の一つである昇降式について解説する。特に手簿の記帳方法と計算方法について述べる。			
水準測量の測定方法(3)	4	水準測量の手法の一つである器高式について解説する。特に手簿の記帳方法と計算方法について述べる。			
水準測量の誤差	2	水準測量によって得られた値には、様々な誤差が生じる。ここでは水準測量に関する誤差について、誤差の生じる原因と消去方法について述べる。			
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。				
成績評価の方法					
<p>出席・受講状況、課題提出等を鑑み、来ます試験の結果を総合して評価を行う。評価の割合は、出席・受講状況(30%)、各講義の最後に行う小テスト(20%)、期末試験(50%)とする。</p>					
教科書・参考書					
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:水理学概論(岡二三生・白土博通・細田尚 監修、実教出版) ・参考書: 					

授業科目名	ランドスケープデザイン	履修年次	2年次	単位数	4単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員					
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

本講義は、ランドスケープデザインを様々な事業や作品事例から多面的に学び、さらにランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくり設計手法を学び、都市や地域における環境を優れた風景としてデザインする基礎知識を習得する。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
ランドスケープデザイン概論	2	学習目標についての説明をすると共に、ランドスケープデザインの授業と演習の進め方や方法の説明を行う。
都市と自然	2	公園緑地の計画と都市環境とランドスケープについて学ぶ。都市と自然の関係や緑の歴史性とまちづくり、都市化の中での緑の保全や公園・緑地計画や計画実現の制度について学ぶ。
日本と世界の造園空間・庭園様式	3	日本と世界で創出された庭園・造園の様式について概説し、ランドスケープデザインの知見を高める。
ランドスケープデザインガーデン設計①	7	ランドスケープデザインの設計の中のガーデン設計に関する概要とその利用・美学・種類について説明をして知見を高める。
ランドスケープデザインガーデン設計②	8	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する分析として、敷地・環境・地割りについて説明をして、知見を高める。
ランドスケープデザインガーデン設計③	8	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する重要な要素の植栽・施設に関して説明を行い、知見を高める。
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

出席状況、課題の提出状況、定期試験により、総合的に評価する。

教科書・参考書

- ・教科書:
- ・参考図書:講義の中で適宜紹介する。

授業科目名	植栽学	履修年次	2年次	単位数	2単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	岩熊 志保				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

日本における自然環境を広く学び、特に緑地空間を作り出すための植物を中心に基礎知識を学ぶことを目的とする。

また、近年、企業における社会貢献活動として、森づくりや花植え活動など緑に関するものが増えている。事例をもとに植栽学で学んだことを実践で活かす方法を学ぶ。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
日本の自然環境	2	日本における自然環境を広く説明する
日本固有種	2	日本における植物の固有種の特徴、形態、生態などを説明する
日本の植生	3	北海道から沖縄まで、海岸から高山まで様々な環境を有する日本の植生について説明する
植物の分類	2	植物の分類について説明する
植栽樹木	5	植栽樹木について特徴、形態、生態などを説明する
緑地空間	3	植物を使った緑地空間、庭、屋上緑化、壁面緑化などを説明する
植物と癒し	1	様々な空間、場面に設けられる緑地空間が人に与える力を説明する
日本庭園	3	代表的な日本庭園の形式(枯山水、露地、池泉庭園)を映像を使いながら説明する
企業における緑に関する社会貢献活動	2	企業における緑に関する社会貢献活動を事例を元に説明する
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

出席状況、課題の提出状況、実技試験により、総合的に評価する。

教科書・参考書

- ・教科書は使用せず適宜プリントを配布する。
- ・参考図書:講義の中で適宜紹介する。

授業科目名	日本文化	履修年次	2年次	単位数	8単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	門司 剛・竹下 綾香				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

日本の政治や経済、災害や就職などについて学び、理解を深めるとともに、日本の社会で生きていくために必要な知識を獲得する。同時にN2～N1レベルの文法、語彙、漢字などを習得し、社会的な場面で必要な総合的な日本語が理解・表現できることを目的とする。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
日本の歴史	7	日本の歴史のおおまかな流れを理解し、基本的な知識を習得する。自分の国との関係、日本との共通点や相違点を考える。
日本の社会	7	少子化や格差社会など現代日本の社会問題を諸外国の社会問題と比較することで、日本の特徴を捉える。
日本の経済	7	経済に関する語彙を習得するとともに、日本の経済、それを取り巻く世界の経済について把握する。
日本の政治・法	7	日本の政治や法律を学ぶことで日本社会の仕組みやルールについて理解するとともに、日本人の意識や特徴を知る。
日本の自然・災害	7	地震や水害など日本に多い災害と過去の復旧活動について知る。災害時に必要なアイテムや知識、日本語についても学ぶ。
日本の就職	7	日本における人気の職業や日本人の就職活動について学ぶ。日本企業や求人に関する語彙や知識を増やすことで自身のキャリア形成をする上で役立てる。
日本人の表現と変化	7	時代の流れによる日本語や価値観の変化、一方で変わらない日本人独特の表現や考え方について学び理解をする。
日本語能力試験対策	11	模擬試験を数回行い解答解説を行う。学生の得意分野、苦手分野を確認し、課題を把握、合格を目指す。
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

成績評価の方法

出席状況、課題の提出状況、実技試験により、総合的に評価する。

教科書・参考書

教科書:「ニューアプローチ 中級日本語 基礎編 改訂版」(語文研究社)、「新完全マスター語彙 N2」(スリーエーネットワーク)、「TRY! 日本語能力試験 N2 文法から伸ばす日本語」(アスク出版) 他

授業科目名	英語	履修年次	1年次	単位数	2単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員					
実務経験のある教員等による授業科目					
授業の目的・テーマ					
授業計画(内容)					
項目	回数	内容			
	全15回				
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。				
成績評価の方法					
教科書・参考書					

授業科目名	キャリアデザイン	履修年次	2年次	単位数	3単位
授業科目区分	国際情報ビジネス科	科目種別	学科必修科目・通常授業		
担当教員	金子 雅美				
実務経験のある教員等による授業科目					

授業の目的・テーマ

日本の企業と仕事について理解を深め、社会に貢献できる人材育成を目指す。
就職を希望する学生一人一人の方向性をデザインし、社会人としての基礎能力の向上を目的とし、留学生が主体的となって進路を確定することを目標とする。

授業計画(内容)

項目	回数	内容
就職説明会対策	1	自国では就職説明会がない留学生が多いので、日本の就職活動の基本を講義する。
特定技能や就労ビザ	2	外国人の新しい働き方としての特定技能や就労ビザについて解説する。
企業研究	20	1年次の企業研究の応用。ホームページや会社案内をもとに企業の目的、理念を知り、エントリーする会社を考える。
グループディスカッション	10	ビジネスのテーマ、課題を提示し、見識を広げるために、自分の考えだけでなく、他者の意見を聞きながら議論する。
就職活動対策	20	面接対策など就職活動に必要なスキルに加え、担任や就職指導員と綿密に連携をとり、学生のキャリアを構築する。
備考	当該年度の授業回数などに応じて一部省略、追加がありうる。	

成績評価の方法

キャリアデザインに対する取り組み方から総合的に評価する。

教科書・参考書